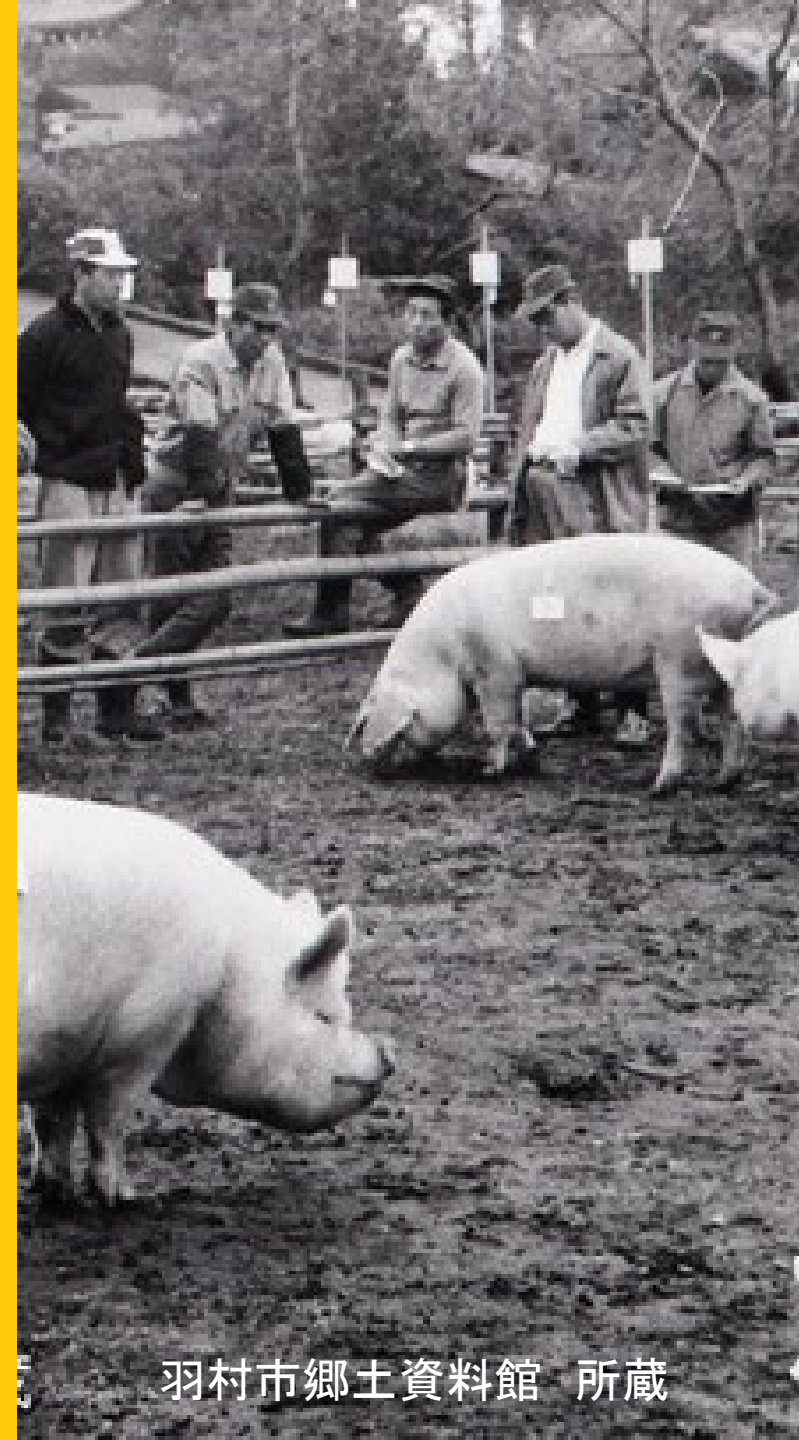


動物のいる風景

開催期間

2019年12月15日(日)～2020年12月15日(火)

多摩地域の動物のいる風景をご紹介します。





清瀬市郷土博物館 所蔵

田かき

よ み:タカキ

撮影年:昭和27年

地 域:清瀬市一下宿

所蔵館:清瀬市郷土博物館

写真解説

田植え前に水を引いて田をならす「田かき」作業の写真です。「鼻取り」の人が馬を引き、「尻取り」の人が「マンガ(馬鍬)」を押さえます。清瀬では昭和40年代頃まで柳瀬川流域の下宿・中里・野塩地域で稲作が行われていました。

東京病院東療病棟 の林の中で

よ み: トウキョウビョウインヒガシリョウビョウトウ

ノハナノナカデ

撮影年: 昭和41年

地 域: 清瀬市

所蔵館: 清瀬市郷土博物館

写真解説

昭和6年に東京府立清瀬病院が開設されたのをかわきりに、芝山地区（現在の松山・竹丘・梅園）の雑木林の中に結核療養所が次々と開設されました。国立東京病院（現・独立行政法人国立病院機構東京病院）は昭和37年に清瀬病院と国立東京療養所が統合して発足。俳人の石田波郷や直木賞作家の結城昌治もこの東京病院で療養しました。



清瀬市郷土博物館 所蔵

柳瀬川と ユリカモメ

よ み: ヤナセガワトユリカモメ

地 域: 清瀬市

所蔵館: 清瀬市郷土博物館

写真解説

水面を群れて飛んでいるのは冬鳥のユリカモメ。海岸や河口付近に多い鳥ですが、この当時は内陸の河川でもよく見られました。柳瀬川では昭和50年代に数多く飛来しました。現在は、冬の一時期だけ数羽が姿を見せるだけになっています。



清瀬市郷土博物館 所蔵



清瀬市郷土博物館 所蔵

清瀬の酪農

よ み:キヨセノラクノウ

撮影年:昭和41年

地 域:清瀬市一中里

所蔵館:清瀬市郷土博物館

写真解説

昭和20年代半ばから、栄養摂取・食生活改善指導等により清瀬でも酪農が盛んになりました。宅地化が進んだ現在も数件の農家で酪農が営まれています。



アカガネサル ハムシ

よ み: アカガネサルハムシ

撮影年: 平成30年6月24日

地 域: 瑞穂町一長岡地区

所蔵館: 瑞穂町郷土資料館(けやき館)

写真解説

初夏に見られる美しい甲虫。大きさは5mm程度。ごく普通に見ることができる。



瑞穂町郷土資料館（けやき館） 所蔵

アカタテハ

よ み: アカタテハ

撮影年: 平成31年9月16日

地 域: 瑞穂町一石畑地区

所蔵館: 瑞穂町郷土資料館（けやき館）

写真解説

カラムシなどのイラクサ科の植物を主な食草とする美しい蝶。この個体は晩夏に発生した個体。



瑞穂町郷土資料館（けやき館） 所蔵

オオタカ

よ み:オオタカ

撮影年:平成31年3月15日

地 域:瑞穂町一元狭山地区

所蔵館:瑞穂町郷土資料館(けやき館)

写真解説

家の庭先でスズメを捕食していた。オオタカにも見えるが、この写真からだとはイタカともツミとも考えられる。

大ムラサキの 幼虫

よ み:オオムラサキノヨウチュウ

撮影年:平成29年12月6日

地 域:瑞穂町一石畑地区

所蔵館:瑞穂町郷土資料館(けやき館)

写真解説

日本の国蝶として知られる種で、幼虫はエノキの葉を食べて成長する。冬場は落ち葉の下で越冬する。

瑞穂町郷土資料館(けやき館) 所蔵



キアシドクガ

よ み:キアシドクガ

撮影年:平成30年5月26日

地 域:瑞穂町一石畑地区

所蔵館:瑞穂町郷土資料館(けやき館)

写真解説

2018年、2019年と、狭山丘陵で大発生している。幼虫はミズキを食草とするため、丘陵内のミズキの葉が丸坊主になってしまった。



瑞穂町郷土資料館（けやき館）所蔵

キイトンボ

よ み:キイトンボ

撮影年:平成30年8月11日

地 域:瑞穂町一高根地区

所蔵館:瑞穂町郷土資料館(けやき館)

写真解説

クヌギ、コナラなどの葉を食べるシジミチョウの仲間。林縁の明るい道端の葉の上にとまっているのがしばしば見られる。



瑞穂町郷土資料館（けやき館） 所蔵

コカブトムシ

よ み:コカブトムシ

撮影年:平成30年6月28日

地 域:瑞穂町一石畑地区

所蔵館:瑞穂町郷土資料館(けやき館)

写真解説

カブトムシの仲間ではあるが、この種類は動物の死骸をエサとしている。あまり見る機会のない昆虫。



瑞穂町郷土資料館（けやき館） 所蔵

シロオビトリノフ ンダマシ

よ み:シロオビトリノフンダマシ

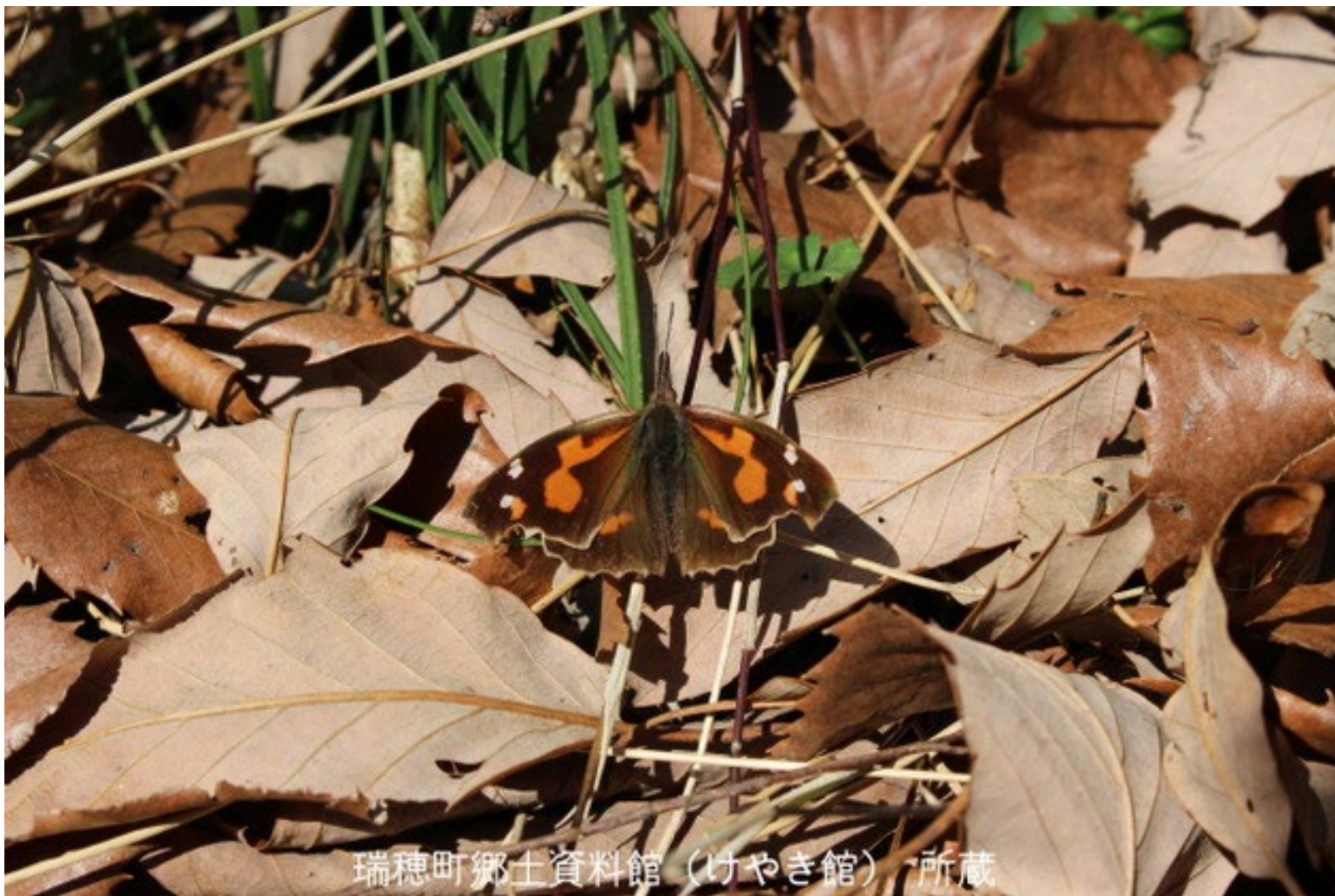
撮影年:平成30年8月11日

地 域:瑞穂町一高根地区

所蔵館:瑞穂町郷土資料館(けやき館)

写真解説

鳥の糞に擬態するクモで、ススキ野原や林縁で見られる。夕方から活動を介するため、昼間はじっとしている。



瑞穂町郷土資料館（けやき館）所蔵

テングチョウ

よ み: テングチョウ

撮影年: 平成30年3月4日

地 域: 瑞穂町一高根地区

所蔵館: 瑞穂町郷土資料館（けやき館）

写真解説

天狗のように、頭部が尖っていることから、その名が付いた。成虫のまま越冬するので、早春からその姿を見ることができる。

ヤママユサン

よ み: ヤママユサン

撮影年: 平成30年5月26日

地 域: 瑞穂町一石畑地区

所蔵館: 瑞穂町郷土資料館(けやき館)

写真解説

クヌギやアラカシなどの葉を食べる大型のガの幼虫。天蚕と呼ばれ、高級な糸を取るために飼育される。狭山丘陵ではしばしば観察される。

瑞穂町郷土資料館(けやき館) 所蔵



あきる野市五日市郷土館 所蔵

自転車で運ばれる 子山羊

よ み:ジテンシャデハコバレルコヤギ

撮影年:昭和24年

地 域:あきる野市—乙津

所蔵館:あきる野市五日市郷土館

春を呼ぶ金魚売り

よ み: ハルヲヨブキンギョウリ

撮影年: 昭和26年2月21日

地 域: あきる野市一五日市神明坂

所蔵館: あきる野市五日市郷土館

写真解説

毎年水がぬるむとやって来た金魚売り。ウメやジンチョウゲがにおい、日ごとに暖かさをまし、着なれたオーバーが重く感じられるころの風物詩。



あきる野市五日市郷土館 所蔵



きじ小屋

よ み:キジコヤ

撮影年:昭和40年代

地 域:あきる野市一戸倉

所蔵館:あきる野市五日市郷土館

写真解説

東京都農業試験場林業分場にて繁殖・飼育していた。



あきる野市五日市郷土館 所蔵

花まつり

よ み: ハナマツリ

地 域: あきる野市一草花

所蔵館: あきる野市五日市郷土館

うさぎと遊ぶ 子どもたち

よ み:ウサギトアソブコドモタチチタチ

撮影年:昭和24年6月27日

地 域:あきる野市一乙津

所蔵館:あきる野市五日市郷土館

調布駅前 (府中行き馬車起点)

よ み: チョウフエキマエ

(フチュウユキバシャキテン)

撮影年: 大正2年

地 域: 調布市ー調布駅前

所蔵館: 調布市郷土博物館

写真解説

大正2年の調布駅前です。当時の京王電車は調布が終点でしたので、府中に行くには馬車を利用していました。当時は川魚料理を提供する新川亭がありました。調布市教育員会発行『調布今昔写真集』に掲載。



調布市郷土博物館 所蔵



調布市郷土博物館 所蔵

滝坂の旧道

よ み:タキサカノキュウドウ

撮影年:大正9年

地 域:調布市一滝坂

所蔵館:調布市郷土博物館

写真解説

滝坂は旧甲州街道で最も急な坂といわれ、荷車の押し屋が繁盛したほどでした。大雨が降ると滝のように水が流れるので「滝坂」と名付けられました。調布市教育員会発行『調布今昔写真集』に掲載。



調布市郷土博物館 所蔵

矢の口の渡し場

よ み:ヤノクチワタシバ

撮影年:昭和初期

地 域:調布市一矢の口の渡し場

所蔵館:調布市郷土博物館

写真解説

矢の口の渡し場は、多摩川原橋の下流300メートルほどのところにありました。馬車は川崎から調布に向かっており、対岸には多摩丘陵が広がっています。調布市教育員会発行『調布今昔写真集』に掲載。



調布市郷土博物館 所蔵

多摩川の鵜飼

よ み:タマガワノウカイ

撮影年:大正初期

地 域:調布市

所蔵館:調布市郷土博物館

写真解説

明治から大正期の多摩川は、水もきれいで鮎がたくさん生息していました。大正初期の稲田堤付近での鵜飼漁を撮影した写真です。調布市教育員会発行『調布今昔写真集』に掲載。

蚕の飼育風景

よ み:カイコノシイクフウケイ

撮影年:昭和

地 域:羽村市

所蔵館:羽村市郷土博物館

写真解説

明治～昭和の初め頃までの羽村(当時は西多摩村)は、村を挙げて養蚕に盛んに取り組んだ「養蚕の村」でした。写真は蚕を飼育するための蚕室の様子です。右にあるのはサシダンで、ひとつひとつの段に蚕とエサの桑の葉を乗せたコノメが入っています。食べかすや糞の掃除、給桑の際は、コノメをひとつずつ引き出して台(クワクレダイ／給桑台)に乗せて行います。



羽村市郷土博物館 所蔵



羽村市郷土博物館 所蔵

竹コノメを洗う女性たちと荷馬車

よ み: タケコノメヲアラウジョセイタチトニバシャ

撮影年: 昭和29年頃

地 域: 羽村市－多摩川河畔

所蔵館: 羽村市郷土博物館

写真解説

多摩川で蚕の飼育に使う竹コノメを洗う女性たち。その背後に荷馬車が見えます。馬は、農産物や肥料のほか、多摩川で採取された砂利などの物資の運搬に欠かせない存在でした。



羽村市郷土博物館 所蔵

乳牛の飼育

よ み: ニュウギュウノシイク

撮影年: 昭和16年頃

地 域: 羽村市

所蔵館: 羽村市郷土博物館

写真解説

養蚕の村として栄えた西多摩村ですが、たびたび起きた繭価の暴落や昭和初めの世界恐慌などを受け、村の養蚕及び製糸事業は窮地に陥ります。そこで、酪農を中心とした農業経営への転換が図られ、北海道などから乳牛を移入し、昭和13年(1938)頃から村を挙げての酪農が始まりました。

牛の世話をする 女の子

よ み:ウシノセワヲスルオンナノコ

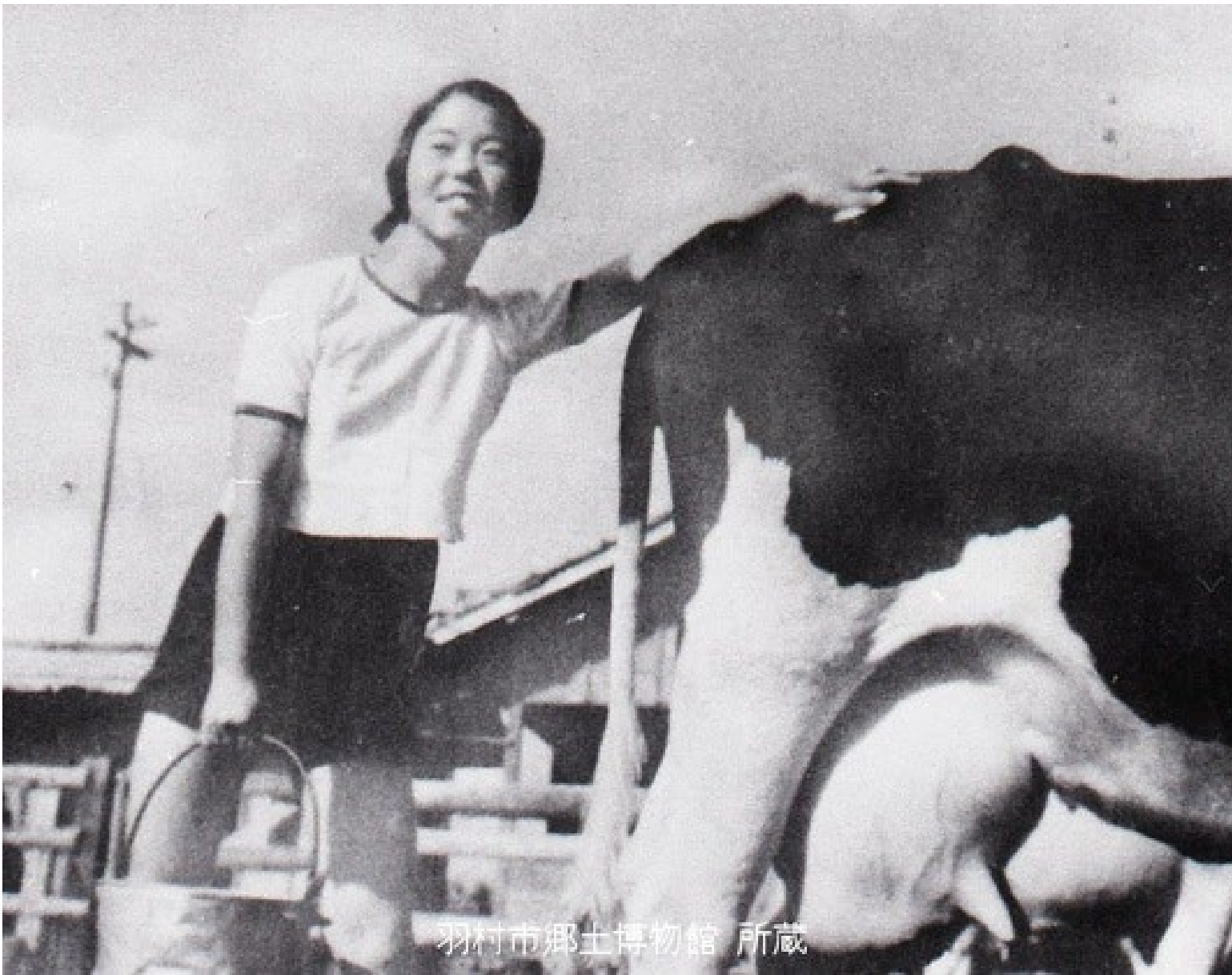
撮影年:昭和10年代半ば

地 域:羽村市

所蔵館:羽村市郷土博物館

写真解説

戦時下では大人の人手不足を補うため、小学校でも乳牛を飼う授業が取り入れられ、子ども達も牛の世話をしました。牛舎の掃除や搾乳を始め、牛のエサとなるトウモロコシの刈り入れなども行いました。



羽村市郷土博物館 所蔵



羽村市郷土博物館 所蔵

子牛を囲む 女の子たち

よ み:コウシヲカコムオンナノコたち

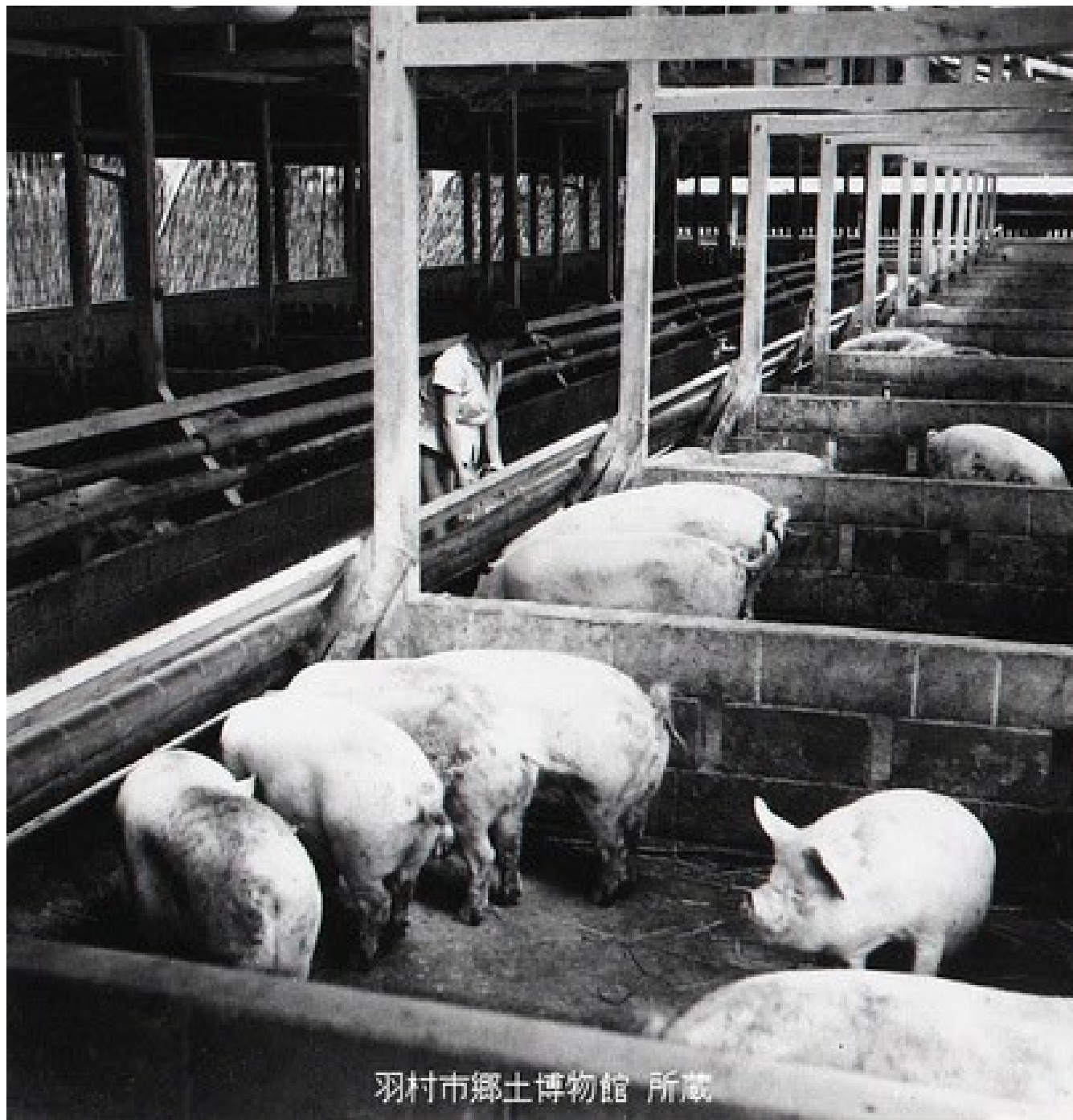
撮影年:昭和10年代半ば

地 域:羽村市

所蔵館:羽村市郷土博物館

写真解説

子牛を囲んで笑顔の女の子たち。子牛の頭には花かんむりが乗せられています。



羽村市郷土博物館 所蔵

デンマーク式 豚舎と豚

よ み:デンマークシキトンシャトブタ

撮影年:昭和30年代半ば

地 域:羽村市

所蔵館:羽村市郷土博物館

写真解説

昭和35年(1960)に畜産振興条例が制定され、従来の耕種農業中心の経営から、より収益の高い畜産中心の経営に切り替えられました。それ以降、羽村町(当時)でも農業経営の安定を目指して、特に養豚が積極的に進められました。

豚の共進会

よ み: ブタノキョウシンカイ

撮影年: 昭和43年頃

所蔵館: 羽村市郷土博物館

写真解説

豚の共進会(コンテスト)の様子です。「羽村豚」は西多摩郡共進会で常に好成績を収めるなど高い評価を得ていました。



羽村市郷土博物館 所蔵

動物公園のキリン

よ み:ドウブツコウエンノキリン

撮影年:昭和53年頃

地 域:羽村市ー羽村町動物公園(当時)

所蔵館:羽村市郷土博物館

写真解説

羽村町動物公園(現在は羽村市動物公園)は、昭和53年(1978)5月に日本で初めての町営の動物園として開園しました。キリンが首を伸ばしてエサを食べる様子は愛嬌があるだけでなく迫力もあり、来園者の人気を集めています。現在も、キリンのほか100種類以上の動物を見ることができます。



羽村市郷土博物館 所蔵

ミニブタのぶー太

よ み：ミニブタノブー太

撮影年：平成21年

地 域：羽村市－羽村市郷土博物館

所蔵館：羽村市郷土博物館

写真解説

羽村市動物公園のミニブタ「ぶー太」が、郷土博物館の企画展「みるブタ・かうブタ・たべるブタ」の関連イベント「ふれあい博物豚(はくぶつとん)」のためにやってきた時の様子。来館者のみなさんにぶー太を撫でてもらったりブラッシングをしてもらったりしました。



羽村市郷土博物館 所蔵